

令和四年度

小論文

(60分)

教育学部 児童幼児教育学科

解答はすべて解答用紙に記入すること

注意事項

- 一、試験開始の合図があるまで、この問題用紙を開かないこと。
- 二、問題用紙は、表紙を含めて三ページである。
- 三、解答用紙は、一枚である。解答は縦書きにすること。
- 四、受験番号・氏名は、監督者の指示に従って記入すること。
- 五、問題用紙の余白等は適宜使用してよい。

問題

教育学部 児童幼児教育学科

次の文章と図1の調査結果を参考にしながら以下の問いに答えなさい。

社会学や経済学では、貧困や低所得のために、政治や経済、文化等社会のさまざまな側面から個人が排除され、大きな不利益を被っている状態を「社会的排除」という概念でとらえてきていますが、この観点は子どもについてもとても重要なものだといえます。テス・リッジは、その著書『子どもの貧困と社会的排除』のなかで、貧困を体験している10～17歳のイギリスの青少年を対象とした調査から、子どもたちの身の上に起こっている社会的排除が子どものQOLと発達をいかに損なっているか詳細に描き出しています。お小遣いがもらえなくて友だちと思うように遊べない、早くからアルバイトをしなくてはならない、家族で旅行をすることが難しく取り残されたさみしい夏休みを過ごしている、友だちと一緒に乗り回す自転車を買えない、他の友だちのように送り迎えしてもらおう親の自動車がない、子ども部屋がない、はやりの服やみんなが持っている文房具や本、雑誌が買えない、修学旅行や遠足の費用を親にもらいにくい等、結果として学校での仲間関係からの排除（仲間外れ）やいじめを招き、子ども自身の自尊心の低下や自己疎外（自分から友だち関係の輪からはずれていき、みんなと一緒にいることを諦めてしまうこと）につながっていることが、子ども自身の切実な言葉によって語られています。⁽¹⁾ リッジが示した相対的貧困^{注3}が引き起こす子どもの社会的排除の実態については、生活保護世帯を含む低所得層にある日本の子どもにも当てはまるところが多くあると予想されます。日本の場合、自分だけ塾に行けないこと、進路選択に制約が大きくて友だちと話が合わないことなど、勉強や進路に関する疎外感も含まれてくるかもしれません。

リッジの研究では10歳以上の子どもたちが対象とされましたが、もっと早い年齢段階の子どもたちは、貧困や低所得の状態のなかでどんな不都合な体験をし、自分の状況をどのように感じているのでしょうか。子どもたちの自尊心や友だち関係にも、影響がもう出ているのでしょうか。今後、小さな子どもたちの「姿」や「声」にもっと接近して、貧困や低所得がどのように体験されているのか、子ども集団のなかで排除の現象が起こっていないのか、ていねいにみていくことが必要だと思います。そして、それに気づいた保育者や周囲のおとなたちが、当事者である子どもの心のケアをするともに、排除する側の子どもたちに対する「社会的包摂^{注4}」をめざした教育的なかわりを工夫していくことが必要になるでしょう。

（菅原ますみ他編著『貧困と保育』第6章「子どもの発達と貧困」）

注1・テス・リッジ イギリスの社会学者『子どもの貧困と社会的排除』（中村好孝・松田洋介訳・渡辺雅男監訳2010年 桜井書店）の著者

注2・QOL（Quality of Life）の略

注3・相対的貧困は、国や社会、地域など一定の母数の大多数より貧しい状態。対して、絶対的貧困とは、食料や衣類など人間らしい生活の必要最低条件の基準が満たされていない状態

注4・社会的包摂（Social Inclusion）とは、社会的排除（Social Exclusion）と対になる概念である

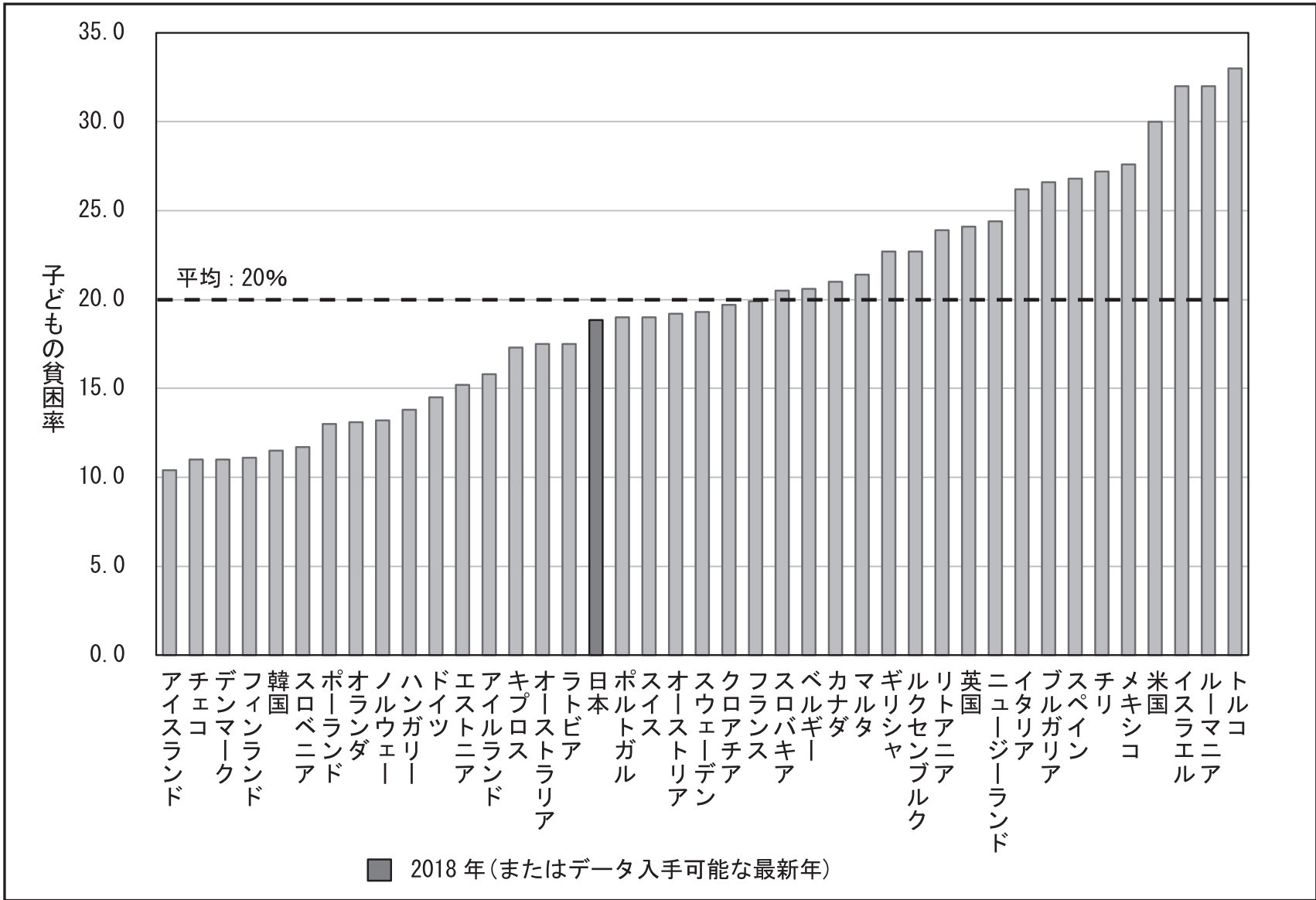


図1：先進国41か国の世帯所得が中央値の60%に満たない世帯に暮らす子どもの割合(2018年)

出所：ユニセフ／ノチンティ研究所『イノチンティ レポートカード16 子どもたちに影響する世界』2021年2月

出題者にて一部修正（①.2008年・2014年の結果は削除 ②.日本のデータを強調）

注：子どもの相対的貧困率は、世帯の可処分所得（税金等を引き所得移転を加えた額を世帯人数・構成で調整した所得）がその国の中央値の60%に満たない世帯に暮らす子どもの割合。等価スケールは、世帯の1人目のおとなを1人、その他の14歳以上の家族をそれぞれ0.5人、13歳以下の家族をそれぞれ0.3人として調整。
データは2018年、ただしカナダ、チリ、ニュージーランド、トルコは2017年、オーストラリア、アイスランド、イスラエル、米国は2016年、日本は2015年。

問一 図1より、先進国における子どもの貧困の状況について明らかに言えることを八〇字以内で答えなさい。

問二 図1の調査の結果を踏まえて、著者の言おうとしていることについての要約、及びそれについてのあなたの考えを四〇〇字以内で述べなさい。